

## 緑内障治療

…………それでも悪化するときにはどうしたらよいのでしょうか

緑内障は、基本的には眼圧を下げることに以外に確立した治療法がありません。緑内障治療の目標は「治す」ということではなく、「ブレーキ」を踏んで進行を遅らせ、歳をとっても生活に困らない視野を確保することです。しかし、残念ながら眼圧を下げて緑内障が進行することもあります。こうしたときにはどうしたらよいのでしょうか。医学的に試みてよいと思われる治療法の研究を紹介します。

円山鈴木眼科 鈴木信敬

### [ 降圧薬 ]

高血圧に使われるカルシウム拮抗薬は、正常眼圧緑内障の眼血流を増加させ、視野を改善することがあります('89岐阜大、'97インディアナ大)。血圧が高めであれば、ニバジールなどが眼科で処方できます。片頭痛治療薬ミグシスも、カルシウム拮抗薬の一つで、正常眼圧緑内障に有用とされています。

### [ イチョウ葉エキス ]

イチョウ葉エキスEGb761は、脳血管型、アルツハイマー型の痴呆症を改善させることが報告されています。ドイツでは、臨床試験の行われる医薬品ですが、国内では健康食品の扱いです。このため、イチョウ葉エキスとして販売されているものには、医薬品レベルのものだけでなく、食品レベルのものもあっていわれています。眼血流量の増加、神経保護などの作用から緑内障への効果が期待されています。ネズミを用いた動物実験では、EGb761は緑内障による網膜神経細胞の消失を抑えることが明らかになっています('04香川医大)。正常眼圧緑内障患者で視野の改善を認めた報告もあります('03Brescia大)。市販のものを個人で購入します。

### [ アルツハイマー治療薬 ]

アルツハイマー治療薬であるmemantineが、緑内障治療薬として非常に有望視されています。緑内障では、視神経が障害されるだけでなく、視神経が視覚中枢と接合する外側膝状体および視覚中枢にあたる大脳の皮質が萎縮します。ところが、実験的につくられたサル緑内障では、memantine投与によって、外側膝状体の神経細胞の萎縮が抑えられ、神経の保護作用が示されています('06トロン

ト大)。医師に相談ください。ただし、国内では未認可ですので、入手や使用にあたっては各個人の責任になります。

#### [ ビタミンB12 ]

メチコバルが、神経保護作用を期待して、また安全で使いやすいことから以前からよく処方されてきました。正常眼圧緑内障へ投与し、視野機能維持に対して有効だったという調査がでています('98日本大)。一方、広隅角緑内障、正常眼圧緑内障への投与で、一部に視野改善例があるものの統計的には有意な効果が認められなかったという報告もあります('88名古屋大)。

#### [ 高脂血症用薬 ]

コレステロールを低下させるために、メバロチン、リポバス、リピト - ルなどのstatin製剤が内科で広く使われています。statinは、視神経乳頭の血管構造を直接保護、あるいは間接的に眼血流循環を改善させ、緑内障の治療に役立つ可能性が考えられています。ブタを用いた動物実験では、眼圧が低下します ('05デューク大)。また、米国で心臓血管障害の多数の症例が調査され、statinの内服が広隅角緑内障の発症のリスクを減らしていることが示唆されています ('04アラバマ大)。高脂血症があれば、眼科で処方可能です。

#### [ 星状神経節近傍照射 ]

星状神経節ブロック治療を受けた患者は、眼圧が低下し、眼底の血流が短時間増加することが報告されています('01東京大)。別な研究でも、視神経乳頭とそのまわりの網膜の血流の増加が示されています('03ソウル大)。しかし、星状神経節ブロックは危険な頸部に注射をすることから、同様の効果を求めて、痛みがなく安全な直線偏光近赤外線による星状神経節近傍照射が試みられています。星状神経節近傍照射を週2回継続して行くと、異常な交感神経興奮を抑制することによって、正常眼圧緑内障の眼圧は一過性に下降、視神経乳頭の血流は増加、維持され、症例により視野障害の進行を抑制する可能性が示めされています('06大阪医大)。当科に設置しています。